

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「多様なニーズで高校教育を求める生徒」を受け止め、一人ひとりが自分のペースに合わせて学習できる学校

- 1 通信制という学びのスタイルを通して柔軟な学習システムを提供する。
- 2 人権を尊重し、生徒一人ひとりが責任を持ち、支え合い、安心して学べる学校。
- 3 「確かな学力」を定着させ、自尊感情を育て、ひろく社会に貢献できる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する教育システムの確立
 - (1) 生徒実態の把握（学力、生活、健康）
 - (2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化
 - (3) 生徒の実態やニーズを見据えた学校体制の見直し
 - ア 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えた・募集人数の在り方と広報の検討
 - イ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化についての検討
 - ウ 単位修得のための環境整備（校務処理の安定的な運用）

※ 運営委員会を毎週開催し、そのメンバーからなる校務運営推進チーム及び学校評価チームを機能的に運営し各種課題解決を図り H31 年度には 80%の処理をめざす。

※ 学力実態の把握に向け、レポート課題における解答等の分析を通して学力実態把握に努める。

※ 教育振興基本計画、府立高等学校再編整備方針に基づいた通信制の機能強化について大阪府教育庁と協議を継続する。
- 2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上
 - (1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の検討・編成
 - ア 次期学習指導要領を見据えた、各教科科目の開設の検討と展開
 - (2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善
 - ア 学習の理解が深まり、達成感の得られるレポートの作成及び添削指導
 - イ レポート作成に役立つスクーリングの展開
 - ウ 研究・公開スクーリングの実施
 - (3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入
 - ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立
 - イ スクーリングに出席できない生徒等のサポート体制

⇒NHK高校講座の利用やICTを活用したeラーニングによる教育システム（スタイル）の研究、試行、実施
 - ウ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立
 - (4) 人権尊重の教育の推進
 - ア 3年間を見通した人権教育計画の策定
 - イ すべての教育活動を通して、人を思いやる豊かな人間性を育む
 - (5) 教職員研修の充実

※ 生徒向け学校教育自己診断におけるレポート、スクーリングに関する肯定的評価を毎年3%ずつ向上させ平成31年度には90%をめざす。

※ 研究・公開スクーリングの教科毎の開催について、実施率を毎年100%とする。

※ 教職員の人権研修を実施し、人権尊重の感覚を充実させる。

※ 初任者等経験の少ない教職員の校外研修への積極的な参加や校内初任者研修の更なる充実を図り、H31年度には「学校全体で育成する体制が取られている。」の肯定率90%をめざす。
- 3 生徒支援と相談体制の強化・充実
 - (1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談・懇談や相談会の実施及び支援体制の充実
 - (2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び危機管理体制の強化及び対応についての情報交換の充実
 - (3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施
 - (4) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り

※ 生徒向け学校教育自己診断における「困った時に相談できる先生がいるか」の肯定的評価をH31年度には75%をめざす。

※ 生徒向け学校教育自己診断における「学校生活はあなたにとって有意義なものになっていますか」の肯定的評価をH31年度には80%をめざす。
- 4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実
 - (1) 生徒の実態に応じたソーシャルスキル教育及びキャリア教育の検討・実施
 - (2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実及びそれに向けた教職員研修の実施
 - (3) 総合的な学習の時間の新たな目標設定と有効活用

※ 教職員向け学校教育自己診断における「生徒が望ましい勤労観・職業観を持つことができるよう系統的な進路指導が行われている」の肯定的評価をH31年度には75%、また生徒の「将来の進路について考える機会がある」について肯定的評価をH31年度には80%をめざす。
- 5 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組
 - (1) 情報発信の充実
 - ア 学校HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容充実
 - イ インフォメーションディスプレイの活用
 - (2) 広報活動の充実
 - ア 学校説明会の充実
 - (3) 地域と連携した防災教育の取組
 - ア 地域と連携した防災研修の開催
 - イ 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習が自分の思い通りに進んでいる。肯定率 74.4%→85.3% ・レポートは、自分でできる内容。肯定率 91.0%→95.9% ・レポート添削は、学習の理解を深める。肯定率 85.3%→87.7% ・スクーリングの内容はわかりやすい。※1 肯定率 90.9%→91.7% <p>〈分析・考察〉 全ての項目で、肯定率が昨年度より増加している理由は、生徒の実態に合わせて各教員が工夫して指導に当たっているからと思われる。</p> <p>【進路指導・人権等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路や生きがいについて考える機会がある。※2 肯定率 70.1%→68.3% ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。※3 肯定率 67.2%→68.3% <p>〈分析・考察〉 本校の学習システムでは、自分の進路について考える機会や、命の大切さや社会のルール等を学ぶ機会が決して多いとは言えない。しかし総合的な学習の時間や今年度作成した人権HR計画等を活用し、より多くの生徒がそれらのこと(進路・人権)について真剣に考えられるように取り組んでいきたい。</p> <p>【学校生活等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校は楽しいですか。肯定率 60.0%→61.5% ・学校行事は、楽しく参加できるよう工夫されている。肯定率 62.4%→69.9% <p>〈分析・考察〉 毎日通学する必要がない通信制といえども、所属している学校での生活や学校行事は、生徒にとって大きな影響を与えている。その意味で今年度は7割近い生徒から肯定的な評価を得ることができたのは、各教職員の努力のたまものであると実感している。</p> <p>保護者向けアンケートとの比較 ※1～※3</p> <p>※1 肯定率 56.1%→59.2%</p> <p>〈分析・考察〉 昨年度と比較して肯定率は上がっているものの、生徒の結果に比べると今年度で 32.5%の開きがある。スクーリングの内容がわかりやすいと思っても保護者には十分つたわっていないと考えられる。</p> <p>※2 肯定率 58.9%→44.0%</p> <p>〈分析・考察〉 昨年度と比較して肯定率が 15%近く下がっている。生徒結果と比べても 24.3%の開きがあるので、保護者面談等の実施を強化していきたい。</p> <p>※3 肯定率 63.2%→60.9%</p> <p>〈分析・考察〉 昨年度と比較して、肯定率が下がった。生徒の結果については、他の2つの質問と比較して大きな差がないので生徒と保護者との間である程度共有されていると思われる。</p> <p>生徒の肯定的な意見(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方が、学習や進路について、快く相談に乗って頂いたので有難かった。 ・クラス通信を郵送していただき有難かった。 ・職員室前の掲示板を見るのが楽しかった。 ・桃通メールによる情報が、迅速で有難かった。 ・先生の方から気軽に挨拶をしてくれるので安心できた。 <p>保護者の肯定的な意見(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講指導時に先生方が一人ひとり丁寧な対応をして下さり安心感があった。 ・多くの先生方にやさしく丁寧に接して頂き有難かった。 ・勉強の質問以外に相談等にも乗って頂き有難かった。 <p>生徒の要望等(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルール等が教科・科目によって違うので混乱した。 ・スクーリング時の先生の声が大きすぎて、つらかった。 ・レポートやテストなど、改行等の書式をそろえてほしい。 <p>保護者の要望等(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールや規則を守ることはもちろん大切ですが、心の傷つきやすい生徒が多いのもこの学校の現状です。丁寧に説明し納得の行く様に伝えることを心がけて頂きたい。 ・担任と生徒、担任と保護者との顔の見える関係づくりが必要だと思います。 <p>〈まとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記以外にも生徒、保護者から多くの貴重な意見をいただいた。それらの意見を真摯に受け止め、生徒、保護者のニーズに応えることができるよう平成30年度の学校経営計画に反映させていく。 	<p>第1回 平成 29 年 6 月 26 日(月) 午後 3 時から午後 5 時まで 〈委員〉「豊かな人間性」を育むための具体的にどのような取り組みをしているのか。 ⇒総合的な学習の時間等を利用し、質問会や個別に行くレポートの質問などの時間やスクーリングの合間の時間で生徒と教員のコミュニケーションの中で豊かな人間性を育んでいる。 ⇒部活動などを充実させ、生徒が意欲的に参加することができる場を設けている。秋季発表大会でも積極的に参加し、活躍する生徒も多くみられる。これらの活動を通して豊かな人間性を育んでいることもみられる。また生徒が教員に質問などをしやすい環境を整えており、生徒と教員のやり取りの中で豊かな人間性を育むことができる。</p> <p>〈委員〉NHK 高校講座は自宅であることができるものなのか。具体的にどのような内容なのか。 ⇒事情により学校に来ることができない生徒について、NHK 高校講座を利用して、スクーリングの代替にすることができる。具体的にはNHK 高校講座を視聴し、その内容に関する報告書を作成し、提出することによりスクーリングの代替にすることができる。 ⇒今はスマートフォンなどでいつでもどこでも視聴することができるようになってきている。過去のものも視聴することができる。時間帯も決まっているわけではない。文部科学省の規定にのっとり、運用している。総合的な学習の時間などを利用して、NHK 高校講座の番組を紹介している。</p> <p>〈委員〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学に行く生徒も増え、就職率も上がっている現状のなか、通信制には様々なニーズをもった生徒が来ている。「確かな学力」だけを育成していくと学力的に進学や就職することが不登校経験者などには困難である。そういう背景をもとに「豊かな人間性」が重要であると考えた。 ・「豊かな人間性」を実現するために、どんなスキルが必要かを生徒の実態から探し、実現していくような取組をしていけばよいのではないかと思う。体育系の部活でも同好会のようなゆるやかな居場所づくりとして利用してみるのもどうか。 ・入学前が不登校、卒業後が自宅待機という生徒の実態を分析する。 <p>→コミュニケーション能力や対人スキルによるものなのか →生きがい、自分の特技を活かすような場を設定していくことにより解消されるのか。 これらのようにスキルに分けて、そこを目標にしていけばよいのではないか。</p> <p>第2回 平成 29 年 11 月 24 日(金) 午後 3 時から午後 5 時まで 〈委員〉HP の教科ごとのページには授業で行った内容が載っているのか？ ⇒14 科目で実施。学校に登校できない生徒はこの教科開設のHP を利用し、電子データで確認することができる。スクーリングで配られたプリントを電子データで確認することができる教科もある。</p> <p>第3回 平成 30 年 2 月 2 日(金) 午後 3 時から午後 5 時まで 〈委員〉生徒・保護者からのアンケートの回収率を上げること、生徒・保護者の実態を把握するうえで重要であるが、具体的にその方法は回収率をどのようにして上げようと考えているのか？桃谷通信の教員の努力だけでは難しいのではないか？また、アンケートの項目について、どうお考えか？ ⇒現在、郵送により 11 月に実施しているが、この時期はスクーリング参加生徒が少ないので、スクーリング参加人数の多い時期である、1 か月早い時期に実施する。 〈委員〉大学でアンケート調査を実施しているが、郵送だと 20% くらいであるが、スマートフォンとかで回答できるものだとすごく回収率があがる。若者はPC よりスマートフォンを見るが多く、卒論指導でアンケートを実施した際、1 時間で 100 位回答が返ってきた事実がある。そのような方法も参考にしてください。</p> <p>府立の通信制に通う生徒と私学の通信制に通う生徒との違い、学習面、対人関係以外の経済的なものが大きいと考える。その現状がわかるようなアンケート項目が必要で、その結果で教育委員会への働きかけもできるのではないか。</p>

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 通信制で学ぶ生徒層の変化に対応する 教育システムの確立	(1) 生徒実態の把握	(1) 学校教育自己診断について ・分析結果を次年度の経営計画に十分に反映させるため実施時期を検討して実施する。 前年度のレポート添削において生徒の学習状況を把握し学習支援の在り方について教科や学校全体で検討する。	(1) ・各教科でレポート課題における解答等の分析を通して、学習支援の在り方について検討し、学校全体で共有する。 ※2(2)ア・イの指標と同様	(1) ・学校教育自己診断を11月に実施し生徒219名(昨年度より9名増)保護者110人から回答を得た。分析結果を教職員と情報共有し、次年度教育計画に活かしていく。 219/1776 回答者/活動生 自己診断生徒回収率(12.4%) (○) ・英語科において1年次科目(英語I入門、コミュニケーション英語I)の1範囲の最初のスクーリングで出席者全員に基礎学力検査実施。(○) (英語I入門83名;昼間部64名、日夜間部19名) (C英語I151名;昼間部119名、日夜間部32名) ・数学科においては、1年次科目(数学I入門)で、各範囲終了時に実施。(昼間部30名、日夜間部46名)(○) ・添削レポートの公開および分析(○)
	(2) 教育システム改革の具体化を推進するための校内運営組織の更なる強化	(2) ・運営委員会を更に機能強化し、改革すべき諸課題について引き続き検討を進める。 ・運営委員会メンバーを核とした校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの活動内容の充実を図る。	(2) 運営委員会の毎週開催 ・校務運営推進チーム及び学校評価推進チームの取組内容とその件数(H28年度計12回)	(2) ・運営委員会内の学校評価推進チームにおいては、学校教育自己診断(生徒用・保護者用・教職員用)、スクーリング評価、レポート評価について、内容の検討を行った。 5回実施。 ・校務運営推進チームについては、今年度実施した分掌の再編についての検討・協議を2回実施。 取組内容(○)件数(△)
	(3) 生徒の実態や生徒・保護者のニーズを見据えた学校体制の見直し	(3) ア、イ ・公立学校として府内唯一の通信制の生徒の実態を把握し、生徒・保護者のニーズの再確認及び通信制の機能強化について、引き続き校内議論を進め、大阪府教育庁に伝える。 ウ ・スクーリング出席管理システムの安定的な運用及び生徒ニーズに合った更なる校務処理に係るシステム開発。(生徒が各教科・科目のスクーリング出席状況等をリアルタイムで把握でき、学習の進行管理の助けとする。担任は生徒の学習進行状況を常時把握できるシステムの構築)	(3) ア、イ ・校内での検討(研修等)回数(H28年度2回) ウ ・統合ネットワーク上での運用 ・校務処理システム係(KSK)が隔週で会議を行い、メンテナンスを組織として行う。	(3) ア、イ ・第1回は、校内研修を10月末に実施 (内容:配慮を必要とする生徒の情報共有⇒実態把握) 第2回は、「通信制の機能強化について」、SWOT分析による本校の強み・弱みを教職員全体で共有。 第3回は、前回の分析をもとに、「学習期限のあり方」「単位認定のあり方」「規範意識の確立」等の喫緊の課題を解消すべく、具体案の検討2月に実施。(○) ウ ・校務処理システム係[KSK](8名)を中心に、各分掌でのITCの利用について、メンテナンスを組織として取り組んだ。(○)

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 「確かな学力」「豊かな人間性」の育成とその実現に向けた教職員の資質向上</p>	<p>(2) 全ての科目における生徒実態に見合ったレポート、スクーリング内容及び指導法の検討と改善</p> <p>ア 学習の理解が深まり、達成感の得られるレポートの作成及び添削指導</p> <p>イ レポート作成に役立つスクーリングの展開</p>	<p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクーリング改善チームを核とし、学校教育自己診断結果の分析を通し、レポート作成及びスクーリング内容及び指導法の改善を行う ・教科会議の充実と教科・科目の取組み目標を明確化 ・レポート及びテスト内容の点検、改善体制の検討 	<p>(2)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート添削評価 3.1 以上 3% 向上 (H28 年度 R75%)、スクーリング評価 3.3 以上がそれぞれ全教員の 9 割以上 (H28 年度 S88%)。 ・学校教育自己診断レポート添削・スクーリング内容について、肯定的評価が 85% 以上 (H28 年度 R85%、S91%) 	<p>(2)ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート評価 3.1 以上 第 1 回 (88.4%) (○) 第 2 回 (86.0%) (○) スクーリング評価 3.3 以上 (88.4%) (△) ・学校教育自己診断レポート添削肯定評価 (87.7%) (○) 学校教育自己診断スクーリング内容肯定的評価 (91.7%) (○) ・各教科・科目から「レポート作成方法について」アンケートを実施し、他教科・科目の工夫等を知り、各教科会議で検討する際の有効な資料となった。(○)
	<p>ウ 研究・公開スクーリングの実施</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全スクーリングの公開化、教科内研究スクーリングの実施。 ・スクーリング見学月間の実施及び研究協議の実施 (年 2 回、6 月、11 月) 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施率 (100%) (H28 年度 100%) ・見学感想票の提出率 100% (H28 年度 100%) 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究スクーリングは、実施率 (100%)。(◎) 6 月参加人数と回数。(8 回、40 名) 11 月参加人数と回数。(6 回、53 名) ・スクーリング見学感想用紙の提出率、第 1 回・第 2 回ともに 100%。(○)
	<p>(3) 生徒の状況に合わせた多様な学習スタイルの検討・導入</p> <p>ア 基礎学力不足の生徒に対するさらなる学習支援策の検討・確立</p>	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身の申請による基礎学力充実のための取組みの検討・実施(質問会・補充・補習・集中スクーリング等)。 ・面接指導エリアの整備・充実 ・学習相談コーナーの設置・充実 	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習会・質問会等への参加生徒数 ・自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導を、個に応じた観点で工夫して行っている」の教員意識の向上 (H28 年度 82%) 	<p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己診断「到達度の低い生徒に対する学習指導」についての教員意識は 76.5% (△) ・基礎学力充実のために、個別指導を実施している。(○)
	<p>イ スクーリングに出席できない生徒のサポート体制</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した e-ラーニングによる教育システムの試行 ・NHK 高校講座さらなる活用及びスクーリング代替の推進 	<p>イ 取組みの実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHK 高校講座のスクーリング代替実施の教科・科目数 (H28 年度 5 教科 7 科目) 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・NHK 高校講座のスクーリング減免は、5 教科 12 科目に拡充。 日本史 B 8 名、地理 B 10 名、科学と人間生活 0 名、物理基礎 0 名、化学基礎 0 名、生物基礎 5 名、地学基礎 0 名、生物 0 名、C 英語 I 8 名、家庭基礎 5 名、家庭総合 11 名、社会と情報 15 名 (◎) ・総合学習の時間を利用し、NHK 高校講座を周知徹底。(○)
	<p>ウ 進学希望者並びに各種検定試験等に対する学習支援策の検討・確立</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国・数・英の進学者対象講習等の実施 	<p>ウ 講習会の開催と参加生徒数 (H28 年度 43 名)</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学科：看護系大学や専門学校に進学希望生徒を対象に、夏期講習を実施。2 日 2 時間、出席者延べ 8 名 (○) ・国語科：小論文添削や過去問の解説など、生徒個々の進路に合わせた個別指導を実施。(○) ・英語科：進学希望者を対象に夏期講習会を実施。 5 日 5 時間、出席者延べ 28 名 (○) ・中国語科は、スピーチコンテスト出場希望者に週 3 日各 1 時間、2 か月間講習実施。(◎)
<p>(4) 人権尊重の教育の推進</p>	<p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 年間を見通した人権教育 HR 計画の策定 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教育活動を通して、人を思いやる豊かな人間性を育む 	<p>(4)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 年間の人権 HR 計画作成 ・自己診断「いじめ等がなく安心して学校生活を送れる」の肯定率向上 (新規) 	<p>(4)</p> <p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3 年間の人権 HR 計画作成済 (◎) ・自己診断 (保護者)「お子様から本校でのいじめの話をお聞きできますか?」(はい 0.92%) 	
<p>(5) 教職員研修の充実</p>	<p>(5)・レポート作成・添削、スクーリングの指導力等向上や生徒の基礎学力充実に向けた取組み内容の検討に関する校内研修の実施 (7・1 月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初任者等経験の少ない教員の授業力向上に向け、校外研究授業への積極的参加の奨励 ・校外研修参加教員による、報告会の実施 ・教職員の AED 研修の実施 	<p>(5) 校内研修の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内研修の取組み内容及び実践に向けた取組み ・研究授業への参加人数 (回数) (H28 年度 11 人 25 回) ・研修報告会の件数 (H28 年度 10 回) 	<p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校公開授業等の研究授業への参加人数と回数 (8 人 12 回) (△) ・職員会議時に、研修会参加者による報告、8 回実施 (○) ・教職員の AED 研修参加数 (H29 年度 18 名) 	

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

<p>3 生徒支援と相談体制の強化・充実</p>	<p>(1) 生徒及び保護者（未成年生徒の）との面談・懇談や相談会の実施及び支援体制の充実</p> <p>(2) 要配慮生徒をはじめとする生徒情報の収集と共有及び危機管理体制の強化及び対応についての情報交換の充実</p> <p>(3) 疾病や障がいに対する理解を深めるための勉強会や研修会の実施</p> <p>(4) 精神科医及び臨床心理士やSC等との連携、福祉・医療等の連携可能な外部機関との連携パイプ作り</p>	<p>(1) 支援を必要とする生徒を抽出、「個別の教育支援計画」を作成し、担任・分掌が連携した組織的な支援の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中卒新入生の三者面談の実施 ・生徒の居場所づくりの一環として、精神保健福祉士等を配置した「ほとりカフェ」の効果的な運用 ・生徒が質問・相談しやすい職員室、面接指導室、相談室の環境整備 <p>(2) 健康調査の結果、必要な生徒に対しての個別面談や担任が行う面談等を通して生徒が抱える諸問題を明らかにし、教職員で共有する</p> <p>(3) 第1、第2範囲当初（5、10月）に研修会を開催、その他関連する勉強会を開催し、生徒の疾病や障がいに対する知識を深め、個々の生徒に応じた保健指導や生徒指導に活かす。</p> <p>(4) 本校生を多く担当している専門医・SCや保護者と生徒の心身に重点を置いた連携を強化することで生徒支援を充実する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談室の環境整備と広報の充実 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援生徒の学習活動の進行状況 ・中卒新入生の三者面談・保護者面談実施率（H28年度32%） ・学校教育自己診断の質問項目の「安心して学校生活を送れている」（H28年度81%）「気軽に相談できる先生がいる」（H28年度64%）の肯定率をそれぞれ3%アップさせる。 <p>(2)(3) 研修・勉強会等実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年2回の研修会の実施及び学校教育自己診断の質問項目の「学校生活についての先生の指導には納得できる」の肯定率の向上（H28年度85%） <p>(4) 面談、相談回数 ケースワーク会議の実施回数（H28年度ケース会議12回、相談回数38回、SC面談回数36回）</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の教育支援計画を作成した48名（H28年度15名）の生徒について、学習活動の進行状況等を、支援委員会を定期的に開催するし情報共有に努めている。（◎） ・中卒新入生の三者面談の実施率64.1%（◎） ・学校教育自己診断（生徒） ・「安心して学校生活を送れている」87.2%（○） ・「気軽に相談できる先生がいる」69.7%（○） ・生徒の居場所作り事業として「ほとりカフェ」を外部機関と連携し実施。随時、生徒の状況把握に努めることができた。（校長マネジメント予算を活用） （1範囲5回、2範囲3回、3範囲3回 全11回）スクーリングの時間帯を外して実施したので、教員、生徒ともに好評であった。利用生徒数のべ65名。（○） <p>(2)(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会主催で、6月に外部講師を招き「精神疾患のある生徒の理解とその支援方法について」教員研修を実施。（○） 生徒情報交換会を6月（研修後）、8月、10月に実施。「配慮必要とする生徒情報」にて、情報共有。詳細な連絡・報告を行い生徒指導に生かした。（◎） ・問題行動発生時には、生徒部を中心に担任と連携しながら対応し、組織的な対応をしている（7件）（○） 「学校生活について先生の指導には納得できる」の肯定率91.6%（◎） <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケース会議12回（○） ・相談件数20回（○） ・SC面談回数30回（○）
<p>4 卒業後の進路を見据えた進路指導の充実</p>	<p>(1) 生徒の実態に即したソーシャルスキル及びキャリア教育の検討・実施</p> <p>(2) 進学希望者、就職希望者に対する支援対策の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A'ワーク創造館と連携を行い、キャリア教育を行う。（社会に出たときに必要な人間関係形成能力を身に付けるための講座を開設する。） ・教員向け進路指導説明会及び進路指導研修会の実施 <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学希望者、就職希望者対象説明会等の実施 ・看護医療専門学校への進学希望者対象の説明会の実施 ・保護者向け進路説明会の開催 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア前教育として実施する講座の開設講座数及び講座への参加者数（H28年度3講座、35名） ・校内研修の参加人数及び教員満足度（H28年度65%） <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習、説明会への参加者数（H28年度進学説明会数7・参加者264名、就職指導説明会50名） ・保護者向け進路説明会の開催と参加者数（H28年度30名） ・就職希望者内定率（H28年度95.8%） 	<p>(1)</p> <p>※キャリア教育支援体制整備事業の終了に伴うリニューアル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職支援講座：実施回数1回、参加者9名（○） ・就職試験対策講座：実施回数1回、参加者32名（○） ・A'ワーク創造館による履歴書・面接指導：10日間、参加者のべ75名（准校長マネジメント予算を活用）（○） ・校内研修の満足度（H29年度65%）（○） <p>(2)</p> <p>《進学関連》（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進学説明会：実施回数2回、参加者54名 ・大学・専門学校分野別説明会：実施回数2回、参加者99名 ・看護医療系説明会：実施回数2回、参加者7名 ・進学奨学金説明会：実施回数1回、参加者25名 ・指定校推薦説明会：実施回数2回、参加者19名 ・センター試験説明会：実施回数2回、参加者15名 ・通信制大学説明会：実施回数2回、参加者2名 <p>《保護者向け》（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け進路説明会：実施回数1回、参加者30名 <p>《就職関連》（○）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハローワークによる就職登録事前説明会：実施回数2回、参加者32名 ・就職説明会：実施回数2回、参加者65名 ・ハローワークによる求人票見方説明会：実施回数1回、参加者48名 ・求人票閲覧会：実施回数3回、参加者のべ83名 ・就職希望者内定率100% 33/33（内定者数/就職希望者数）

府立桃谷高等学校
(通信制の課程)

<p>5 情報発信・広報活動の充実及び地域と連携した防災教育の取組</p>	<p>(1) 情報発信の充実 ア HP、携帯連絡メール（桃通メール）、桃谷通信の内容充実</p> <p>イ インフォメーションディスプレイの活用</p> <p>(2) 広報活動の充実 ア 学校説明会の充実</p> <p>(3) 地域と連携した防災教育の取組 ア 地域と連携した防災研修の開催 イ 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施</p>	<p>(1) ア ・HPに全教科のページを設け、内容の充実を図る。 ・携帯連絡メール（桃通メール）を活用し、生徒・保護者への積極的な情報発信を行う。</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイの有効活用</p> <p>(2) ア ・少人数での説明会を実施しているので統一された内容の説明を行うため、説明会用スライド及び学校紹介用DVDの改善・充実。</p> <p>(3) 地域と連携した防災教育の取組 ア 地域と連携した防災研修の開催 イ 防災計画の策定及び実践的な避難訓練の実施</p>	<p>(1) ア ・教科開設ページ 100% (H28 年度 71%) ・HPへの年間アクセス数 (H28 年度 150,221 回) ・携帯連絡メール（桃通メール）への登録件数と発信回数 (H28 年度 598 名 34 回)</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイの更新頻度 (H28 年度週 1.5 回)</p> <p>(2) ア ・学校説明会等参加者へのアンケートにおける「説明の解り易さ」肯定的評価の向上 (H28 年度 84%)</p> <p>(3) ア、イ ・教員自己診断「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができていく」の向上 (H28 年度 67%)</p>	<p>(1) ア ・教科開設ホームページ、100% (14/14 教科) (○) ・HPへのアクセス数 143,358 回 (△) ・桃通メール登録件数 502 名 (○) ・桃通メール発信回数 25 回 (○)</p> <p>イ ・インフォメーションディスプレイを毎日更新。(○) 掲載の情報管理の効率化を図り、掲載漏れや誤情報等がないようにした。各種教務連絡や行事、講習会等の案内にも役立てることができた。</p> <p>(2) ア ・学校説明会を年3回実施予定。(○) 第1回 11月実施 (参加者 356名 H28年度 320名) 第2回 1月実施 (参加者 271名 H28年度 221名) 第3回目は2月4日に実施。 ・アンケートを第2回目に実施「分り易さ」93.4% (◎)</p> <p>(3) ア、イ ・教員自己診断「災害等に対し組織的に迅速かつ適切な対処ができていく」61.2% (△)</p>
---	--	--	--	---